

【生産者の声】

経営面積は、今後ますます拡大します。基盤整備により、スマート農業が実現可能となり、省力化と高品質な作物生産を両立して収益増を目指します。



耕作者 Mさん

基盤整備

ほ場の大区画化により営農作業が効率化

・約4倍の最大2.2haへ大区画化

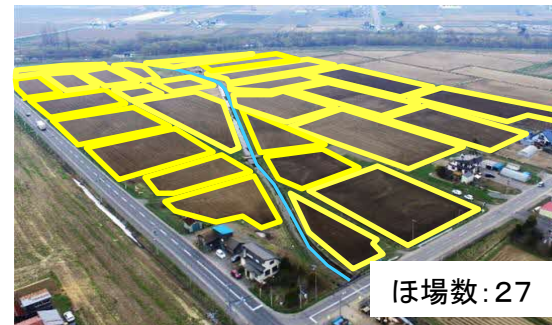


ほ場数: 7

基盤整備

【整備前】

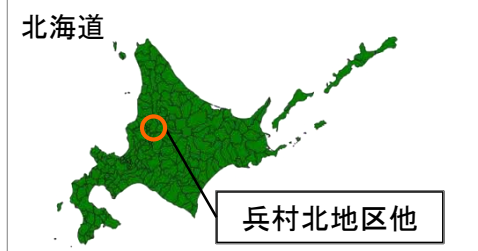
・不整形な狭小区画



ほ場数: 27

【取組地域の概要】

○位置
北海道 旭川市



兵村北地区他

○主要作物
・水稲、小麦、大豆

○主な支援施策
・道営事業
・国営事業
・団体営事業
・道営かんがい排水事業

生産現場

スマート農業の推進

ほ場の大区画化により無人GPSトラクターの導入が可能となり、作業時間の短縮とともに肥料、除草剤が均一に散布できることから、より高品質な作物を生産できるようになった。



地域の取組

地域ブランド化の取り組み

農家の母さんの味を継承した味噌のほか、2020年からは、地元産米「ゆめぴりか」を原料にしたビールなど農産加工品を開発し、生産・販売



担い手

全道トップクラスの新規就農者数

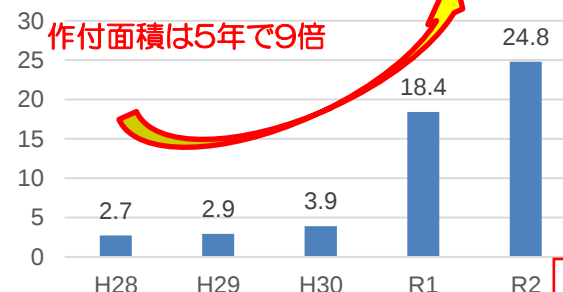
旭川市では、東京や札幌での就農フェアやオンラインで就農相談を実施し、希望者は地域の農家が受け入れて研修を行うなどの取組をとおり、平成22年から令和元年までの10年間で20名の方が農業以外から新規参入している。

地元の米・水・酒蔵で日本酒造り

東旭川の酒造好適米作付け面積は、地元酒造からの需要増により増加。市内の酒造では、品質の良い地元の米と大雪山の伏流水で、地域性を打ち出した日本酒を製造・販売している。



酒造好適米作付面積(ha)



【出典】JA東旭川調べ

町全域にて大区画化を推進 ～ 将来に向けた多様な米作りの継承 ～

ましけ

【北海道増毛町】

【生産者の声】



区画整理により、水管理の労力が格段に軽減されました。
特別栽培米の作付けを始めました。

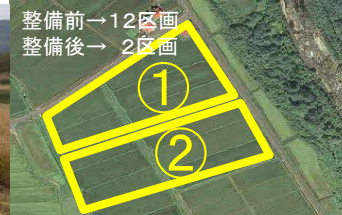
R元年経営移譲されたNさん

未整備ほ場から大区画化推進による作業効率の向上

- 大区画化（最大2.5ha）と用排水整備により、町全域の水田で大幅な作業効率改善（機械作業・水管理省力化）が図られた。



乾田化による収穫作業の効率化



整備前→12区画
整備後→2区画

基盤整備

(H26年～現在)

【整備前】

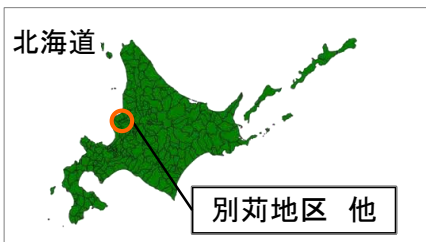
- 未整備の区画は、平均13a程度の狭小なほ場で作業効率が悪い。
- 暗渠排水も未整備であり、排水不良土壌では、機械作業が困難。

狭小で排水不良な水田



【取組地域の概要】

- 位置
北海道 増毛町（過疎地域等）



別荘地区 他

- 主要作物
・水稻・果樹（サクランボ・リンゴ・梨・ブドウ他）・そば 等

- 主な支援施策
・道営経営体育成事業(H26～現在)
・多面的機能支払い交付金(H27～現在)

生産現場

農地集約化を見据えた稲作の展開

- 担い手の水田経営規模
7.2ha(H20)→11.6ha(H30)
- 省力的栽培技術（乾田直播栽培 無代かき栽培）導入
- 区画整理や排水改善が低タンパク米や低農薬米生産を実現。

【経営面積の推移】



地域の取組

地域産業と連携した米作り

- 国稀酒造と生産者の連携による酒造好適米の生産が拡大。
- 地域ブランド「日本酒の海外輸出拡大」による地域産業の活性化。



国稀酒造

酒米協議会

【酒米面積の推移】



担い手

担い手の確保

- 大区画化・集約化が進んだことにより、後継者のUターン者が増え、安定的に担い手が確保されている。

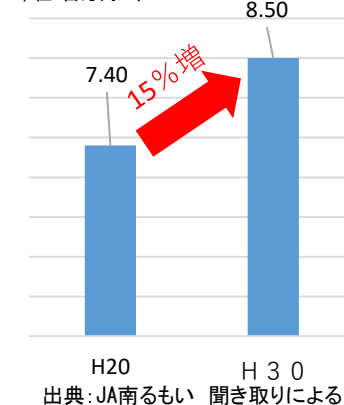
【後継者の推移】



町全体の優良農地の確保に向けた取組

- 基盤整備を契機として、高品質米や酒造好適米の生産が拡大し、所得が向上している。
- 若手後継者が集まり「特別栽培米」作付けを新たにチャレンジ。
- 多様な米づくりによって地域の活性化に期待！

【戸当り販売額の推移】
単位：百万円／戸



国稀酒造製造の日本酒

出典：JA南もい 聞き取りによる

【工夫のポイント】

○国が定めた「新水道ビジョン」を踏まえ、稚内市では、安全でおいしい水を安定的に供給していくため、施設の老朽化に対応した将来像を設定し、これを実現する基本方針として「稚内市水道事業ビジョン」を策定。

○同ビジョンの基本理念である「人と環境にやさしく、災害に強い水道」のもとに、安全でおいしい水を安定的に供給することを目指す。

【取組地域の概要】

○位置 わっかないし
北海道稚内市



○主要作物

・牧草

○主な支援施策

- ・担い手育成草地整備改良事業H5～
- ・草地畜産基盤整備事業(担い手中核型)H18～
- ・草地畜産基盤整備事業(草地整備型)H26～
- ・畜産担い手育成総合整備事業(再編整備型)H21～
- ・農地整備事業(単独営農用水)H24～
- ・一般農道(集乳農道)H20～
- ・農地整備事業(通作条件整備)H26～
- ・国営総合農地防災事業H17～

施設の防災・減災機能の強化

- 耐震管へ改修することで、営農用水の安定供給を確保
- 非常用発電機等の設置、施設の監視システム強化



監視システム



耐震管へ改修



非常用発電機等

改修

(H24年～R3年)

【整備前】

- 施設の老朽化により漏水が頻発
- 安定した生乳品質や乳量の確保に不可欠な家畜用水は、水量の確保に多大な作業負担を強いられ、一刻も早い改修が求められていた。

営農用水施設の現況



トラックによる給水



漏水状況

安定的な農業経営の確保

- 営農用水施設の整備、耐震性強化等により、経営規模拡大に対応した用水量を確保
- 災害発生時においても、乳牛への給水が可能になり、安定した営農が実現



生産現場

地域の安全性確保

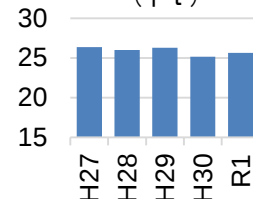
- 耐震工事により地域の防災意識が向上
- 管路改修に併せて、消火栓を設置し、地域の防災・減災対策に寄与

地域の取組

営農用水整備により維持管理費の削減に貢献

- 地域に必要な営農用水量を確保するとともに、漏水事故等を解消して維持管理費を節減
- 安定した生乳生産量の確保が可能に

生乳生産量 (JA稚内)
(千 t)



営農用水施設整備
(耐震性強化)

維持管理費 9,100千円/年の節減

災害発生時の被害を未然防止

耐震化整備により、災害発生時のほか、漏水時の対応も解消。



漏水時、消防車で給水



漏水時の住民対応

高収益作物(たまねぎ)の生産拡大で所得向上

びほろ
【北海道美幌町】

【生産者の声】

たまねぎの作付けを増やすため、基盤整備で「ほ場条件の改善が必要だよなあ」



たまねぎ講習会の様子

【取組地域の概要】

○位置
北海道 美幌町



○主要作物
・たまねぎ、にんじん、馬鈴薯、小麦、てんさい等

○主な支援施策

- ・国営畑地帯総合パイロット事業(S45～)
- ・道営畑地帯総合整備事業(S46～)
- ・産地パワーアップ事業(H28～H29)
- ・強い農業づくり事業(H29)

農業農村整備事業の実施による、たまねぎの生産拡大

区画整理 → **均平化**、暗渠排水 → **湿害の解消**、畑地かんがい → **品質の確保**など、農作業の効率化を実現し、「たまねぎ」の**生産拡大と品質の高位水準化が実現**。

基盤整備

ほ場の均平



リールマシンで散水



たまねぎの大きさが均一



基盤整備

(S46年～現在)

【整備前】

農地の湛水、湿害により高収益作物(**たまねぎ**)の作付けが困難であった。

整備前



生産現場

愛される農産物への取組

他町村のお祭りに参加して、「**美幌産たまねぎ**」を**アピール**



幼稚園に「**たまねぎ**」の**プレゼント**

(たまねぎの贈呈式)



(たまねぎの詰め放題)

地域の取組

新たな販路拡大に向けて

- ・令和元年から台湾、韓国へ**たまねぎの輸出開始**(1,350ト)
- ・**たまねぎ**たっぷり「美幌和牛ほろほろ煮込みカレー」を販売



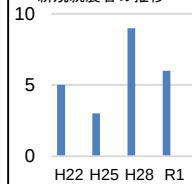
(韓国へ出発)

担い手

次世代農業者のサポート

- ・新規就農から経営移譲までの各ステージに合わせた**教育研修**による支援を実施
- ・新たな営農展開を見据えた**ICT技術の普及推進**を図る取組を実施

新規就農者の推移



出典: JAびほろ

美幌産たまねぎによる農家所得の増

【作付け面積】

※H20年とH30年の比較

・725 ha から 1,030 ha ⇒ **約1.4倍増**

【生産額】

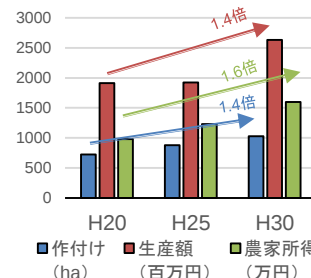
・1,912 百万 から 2,630 百万 ⇒ **約1.4倍増**

【町全体の農家所得】

・9,793 千円 から 16,005 千円 ⇒ **約1.6倍増**



たまねぎ作付け・生産額



出典: 北海道農政事務所(作付け面積)
JAびほろ(生産額・農家所得)